

《2005年3月例会一月例会100回記念パーティー報告》

【日時】2005年3月31日（木）18：30開場（アップ開始）→19：30開宴→21：30頃中締め→24：00頃まで→2次会（～4:00頃？）

【会場】フットボール・ラヴァーズ（六本木）

【参加者（会員）】相原正道（電通PR） 浅野智嗣（(株)スクワッド） 麻生征宏（学研） 井上俊彦（フリー） 上間匠（FC東京） 宇都宮徹彦（フリー） 大橋二郎（大東文化大） 川井寿裕（公務員） 熊谷建志（BSP） 鈴木崇正（NECメディアプロダクツ） 高橋義雄（名古屋大） 田中俊也（三日市整形外科） 田中理恵（日本能率協会総合研究所） 徳田仁（セリエ） 中塚義実（筑波大学附属高校） 中村敬（緑ヴェルデユースS.C.） ジュン・ハシモト（フリーライター） 長谷川雅久（立教大学2年） 葉梨忠男（日経放送メディア） 福岡哲朗（(株)クラブハウス） 本多克己（(株)クラブハウス） 松下徹（大原簿記学校） 宮城修（大東文化大） 宮崎雄司（サッカーマニア編集長） 村林裕（FC東京） 室田真人（中央大学・NPO法人九曜クラブ） 両角晶仁（日本スポーツ振興センター） 山下則之（Jリーグ）

【参加者（未会員）】江川純子（JFA技術部） 菊地由佳（セリエ） 高木亮（ベアーフットジャパン） Alex Gover（ベアーフットジャパン） 武井大介（田中(俊)さんの連れ） 根岸良多（アールスポーツウェブ）

サロン2002のあゆみ

一月例会100回記念パーティー

【概要（理事長の感想・意見を含む）】

18時過ぎから集まりはじめた“濃い”仲間たちは、参加費2000円と資料代500円を支払い、お宝映像（まずは1966年イングランド大会の北朝鮮対イタリア）を肴に、18：30頃からウォーミングアップを開始した。本日の資料は、「サロン2002のあゆみ」が掲載されている『2004年度公開シンポジウム報告書—totoを活かそう！』である（2005年度会員には、名簿とともに5月頃郵送します）。

19：30頃、進行役の宇都宮さんの呼びかけで“正式に”開宴。理事長の挨拶は、「おめでとうと私に言ってくれるのはうれしいけど、本当におめでとうのは私ではなく、このあたりに浮かんでいる、実体はないけど100回も続いている“サロン2002”という不思議なネットワークです。今日は皆で、“サロン2002”という不思議なやつを祝福しましょう」といった趣旨の話があり、乾杯した。

その後は約40～50分、報告書に沿って宇都宮さんと理事長が語り、折に触れ、参加者からのコメントを挿入しながらこれまでを振り返った。サロン2002の前史である「社・心グループ」時代から関わっている方々—大橋さん、高橋さん、田中(俊)さん、鈴木さん…これら古くからのメンバーからも懐かしい話をいただいた。

1997年度より正式に“サロン2002”の名称で活動を開始し、翌1998年のワールドカップ・フランス大会では、サロン参加者の多くが様々な形で関わった。月例会の参加者は増え、かつ多様化し、“出張サロン”で全国の方々との交流の機会も持つようになった。そして徐々に、組織としてのサロン2002

を意識するようになり、サロン2002のあり方そのものを、月例会で何度か取り上げるようになった。参加費の徴収、メーリングリストの開設、サロン2002将来検討会の開催などを経て、2000年3月27日の議論の後、2000年度から会員制の組織となった。

その後、フットサル・プロジェクトやワールドカップ・プロジェクトで成果を上げる一方、ゆるやかなネットワークとしての良さを保ちつつ今日に至る。公開シンポジウム、出張サロンなど、様々な形で月1回の例会を続け、本日ここに100回を数えることになった…

名古屋や大阪、長野へ帰らなくてはならない方は、21時頃には店を出なければならない。逆に、年度末の仕事を終えて、その頃ようやく店にたどり着いた方もいる。中締め後の「フットボールラヴァーズ」は、懐かしい面々やはじめて出会った人々が、フットボールやスポーツを共通の話題に、飲み、大いに語る、ゆたかな時空間であった。「サッカーTV」の取材もあり、近々、パーティと理事長インタビューの様子がオンエアされる（BSデジタルではあるが）。楽しみである。

閉店ぎりぎりまで存分に楽しませていただいた「フットボールラヴァーズ」には心より感謝したい。ちなみに、店の壁いっぱい置かれた貴重な蔵書やグッズの数々は、すべてオーナーの小谷泰介さん個人の財産だという。「フットボールに関するものは捨てられないんです」という小谷さんとも、共通するものを感じたし、このようなすばらしい空間で月例会100回を祝ってもらえる“サロン2002”ってやつも幸せもんなあと思った。

閉店後、もう1軒出かけた男どものうち、家に帰れなかった者（最初から覚悟していたが）は六本木のサウナで仮眠し、翌朝（その日の朝）、高校生の部活動に参加した。結構タフにできている。ありがたいことである。

最後に、これからの「サロン2002」について、報告書に書いたことを再掲することで理事長からのコメントを締めくくりたい。

サロン 2002 のことを語るときりがない。最後に、「サロン 2002 はどこへ向かうのだろう」について考えてみたい。

NPO法ができる前から「NPO法人化」を視野に入れていたサロン 2002 が、気がつけば後発の諸団体に追い越されているような気がする。特に 2002 年の前後は、こんなことでいいのだろうか、ちょっぴり不安になり、寂しさを感じていたのは事実である。

しかしやはりこのネットワークは不変であり、普遍である。ワールドカップ後の“ゆたかなくらし”を考える際にやはり戻ってくるのはサロン 2002 であった。

サロン 2002 そのものがNPO法人として次の段階に進むことが、一つの方向性として考えられるだろう。社会的な支援を受けながら、社会に対して働きかけていこうとするイメージである。

一方で、サロン 2002 は何かをする場ではなく、何かをするためのきっかけをつかむ場にとどまるという考え方もあるだろう。ゆるやかなネットワークにはそれなりの意義と良さがある。

どちらでもいいと思う。

大事なのは、会員一人ひとりが、この不思議なネットワークの行方（壮大な社会実験の行方）を、当事者意識を持って見守るという姿勢ではないだろうか。

インターネットの普及によって、知らぬ間に全国展開していたサロン 2002。

その原型は、カリンカやルンでのバカ話に気持ちよく付き合っている、サッカーバカな仲間達である。

30代から40代という“働き盛り”（ずっとそうありたいが）を、こうした熱きネットワークの仲間と過ごすことができたのは、幸せ以外の何ものでもない。

月例回 100 回を記念してまとめることになった「あゆみ」は、なかなかエネルギーのいる作業だった。しかし、とてもおもしろかった。そして改めて思う。

サロン 2002 はすごい！

私はこの不思議なネットワークを誇りに思う。

【会員からのコメント】

■熊谷建志@NYCです。

100回記念月例会の最遠方からの参加です。たまたま日本出張の予定と噛み合ってよかったです。

北米在住の私にはインターネットのYahooニュースぐらいでしか日本の出来事を知らないのですが、1年日本から離れているだけでもいろいろな「熱」が変わっているのがわかります。

コンビニ行けばサッカー専門紙があり、バーレーン戦の3日前からNHK朝のニュースのトップで選手のコンディションが報道されるなど、遠くからの言葉の報道ではわからないサッカー界の環境変化を日本で感じました。

今回の例会も、数回しかサロンに参加していなかった私を覚えてくださった方が多くて感激でした。緩やかなネットワークの中でも、例会のような「現場」は尊重したいと感じます。

私のはじめて参加したサロンは43回目でした。ちなみに私が長く関わったサロン・ド・トウカイは、今数えたらこれまでに21回開催していました。

<http://www2u.biglobe.ne.jp/~sports/salon/>

それでは皆様またの機会に。

■高橋義雄

昨日は中座しましてすみません。本多さん、福岡さんとぎりぎり新幹線に乗り込み東海、関西方面へと帰りました。(走りに走りました)。

ご無沙汰していた方々と出会えるのも、またサロンのいいところですね。なんといっても理事長の包容力がサロンを維持していると思います。いちメンバーとしてサロンを大事にしたいと思います。

■福岡哲郎

昨日は初めてサロンに参加させていただき、とても楽しい時間を過ごせました。ありがとうございます。初参加でいきなり中座してしまったのは残念ですが、帰りは最終の新幹線にギリギリで間に合うことができました。

今後は参加の頻度をもう少し高めていきたいと思いますのでよろしくお願い致します(以下略)

■田中俊也@三日市整形外科・富士市です。

私も21時過ぎに中座しました。その後は如何でしたか？

地下鉄大江戸線は不通で肝を冷やしました。なんとか新幹線に間に合いました。明日、エコパへお越しの方、「アウェーのゴール裏」で制服きてます(^0^)(以下略)。

以上